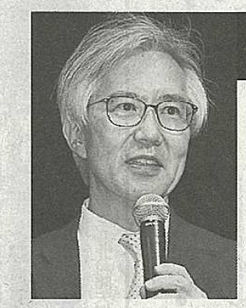
「第11回大腸がん死亡ゼロを目指して」

大腸がん検診の受診を啓発するシンポジウム「第11回大腸がん死亡ゼロを目指して」が2月19日、大阪市淀川区で開かれた。濵崎寛・元大阪市住之江区医師会長が始めた集団検診「住之江方式」の功績を受けて毎年開催しているもので、約700人の市民が参加。放射線科、内科、外科の専門医のリレー講演に熱心に耳を傾けた後、毎日新聞の人気企画「近藤流健康川柳」の選者、近藤勝重毎日新聞客員編集委員の軽妙な進行によるパネルディスカッションで気分をほぐし、デューク・エイセスのスペシャルコンサートでリラックスしたひとときを楽しんだ。 【藤原規洋】

大切なのは早期発見

「大腸がん検診のススメ」



東京大学医学部付属病院
放射線科准教授
中川恵一さん

簡単な検査 続けるだけで

日本は国民の半数ががんになるがん大国です。2012年のデータでは、生涯でがんになる確率は男性63%、女性47%ですが、年々1%ずつ増えており、16年では男性67%、女性51%と推定されます。特に大腸がんは増え続け、15年の予測では部位別で初めてトップになりました。

がんで死なないためには、がんにならないこと。そのためには、たばこを吸わないことが最も大事で、酒や肉食、塩分摂取を控えめにし、運動を続けて体形の維持に努め、野菜や果物を十分にとることなどが必要です。しかし、こうした生活を続けても半数から3分の1はがんになります。運悪くがんになったら――最も大切なのは、早期発見です。

がんは、よほど末期にならないと症状が出ません。従って、早期発見のためには定期的に検診を受けることが必要です。大腸がんの検診はがんの中でも一番簡単です。便潜血反応検査、検便するだけでいいのです。みんながすれば、死亡率は2割ほど下がります。しかし、日本の受診率は先進国の半分くらいで、大腸がんは3～4割にすぎません。中でも大阪府は最低です。

検便を3年間続ければ計算上、97%見つかります。それだけ確かな方法なのに、受診率が低いのは大変もったいないことです。検便で陽性となっても精密検査を受けない人が多いのも問題です。

私も身内をがんで亡くしました。見つかった時には転移がありました。検診を受けていなかったのが悔やまれてなりません。がんは発見が遅れるほど治る確率は下がり、治療費も膨れあがります。大腸がんは検便で見つかるような早期であれば98%以上が5年以上生きられる病気です。ぜひ検査を受けるようにしてください。

なかがわ・けいいち　東京大学医学部卒。スイスの研究施設で研究員を務め、2002年から現職。

「大腸がんに対する診断と治療の最前線」

大阪医科大学
第二内科教授
樋口和秀さん

小さな病巣 内視鏡で切除

大腸がんの症状を教えてくださいと、よく質問されます。一般的に、体の左側にできたら下血や血便、便秘など。右側だったら貧血やしこりを感じます。しかし、症状が出たら遅いのです。

便潜血反応は、自治体によっては40代以降では無料のところが多く、保健センターや一般のクリニックでも簡単にできます。陽性だったら、2次検診でチェックします。大腸内視鏡とバリウムを使う注腸検査がありますが、最近は内視鏡が多いです。腫瘍マーカーがありますが、がんがあっても必ずしも数値が上がるとは限りませんので、あくまで補助検査の位置づけです。

なぜ検査を受けないのかという問いに、自覚症状がない、がんが見つかるのが怖い、つらくて痛そう、恥ずかしいなどの声が聞かれます。女性の大腸がんの死亡率が高いのは、恥ずかしさから受診しない人が多いためと思われます。しかし、実際の検査は痛くなく、恥ずかしくもないように工夫されています。

内視鏡も進歩しており、拡大したり色を付けたり、病巣の深さのわかるものもあります。5㍉未満の大きさなら精密検査時に取ってしまいます。5㍉以上なら詳しい検査をしたうえで適切な治療法を考えます。内視鏡検査は下剤を飲む前処置がしんどいという方もおられますが、便が残っていると腸壁が見えませんから、我慢してください。

楽な検査方法としてカプセル内視鏡があります。小腸用に続いて大腸用もできています。長さ3㌢ほどのカプセルを飲むだけで、1秒間に30枚の写真を撮影して、数時間から10時間程度で便とともに排せつされます。保険適用がありますが、通常の内視鏡検査ができないと判断された場合などに限られます。

ひぐち・かずひで　大阪市立大学医学部卒。同大学助教授などを務めた後、2007年から現職。

「大腸がんに対する外科治療の進化」

大阪医科大学付属病院
がんセンター特務教授
奥田準二さん

腹腔鏡手術 質求め定型化

大腸がんの手術は腹腔鏡を使うケースが増えています。小さな穴からカメラや手術器具を入れて、内部を見ながら手術します。開腹手術だと大きな傷で空気にさらされるので、腸閉塞や癒着が起きやすかったのですが、そのリスクが低くなります。

日本内視鏡外科学会のまとめでは、2013年の腹腔鏡による大腸がんの手術数は57%でしたが、15年には72%にのぼっています。ただ、腹腔鏡手術は直接臓器に触れず、奥行きがわかりにくいので、外科医にとっては難しいもので、技術の差がどうしても出ます。

結腸進行がんについての調査では、合併症の発生割合は、開腹ならどの病院も差はありませんでしたが、腹腔鏡は病院によって最大5倍の差があります。5年生存率では、開腹は92%、腹腔鏡は96～86%で、これも病院による差が大きいです。

大阪医大では15年の大腸がん手術は512件で、そのうち97%が腹腔鏡です。安全で質の高い手術を追究して定型化、個別化、創造化を進めてきました。術前におなかの立体的な地図をCTでつくり、それを見ながら最適な手術を行っています。女性などでがんがひどくなければ、おへそに3㌢ほどの穴を一つ開けるだけの単孔式を採用することも多いです。

また、肛門温存にも力を入れており、直腸がんの92%は温存しています。がんが肛門近くにあってもできるだけ肛門を残します。一方、術後の縫合不全は1・9%、排尿障害は2・4%と、いずれも平均をかなり下回って良い成績です。

手術には工夫が大切です。三次元腹腔鏡とか電気メス1本でも十分な手術ができます。術前の化学療法、放射線療法を組み合わせるなどチーム医療で取り組めば、よりいいでしょう。「日々新たに」をモットーに、さらに手術の質を高めていくよう努めています。

おくだ・じゅんじ　大阪医科大学卒。米国留学の後、大阪医大准教授などを経て2014年から現職。

パネルディスカッション

主催　毎日新聞社
後援　大阪府、大阪市、大阪府医師会

進行を務めた近藤勝重・毎日新聞客員編集委員

近藤　がんは早期発見で治る病気になったと言っていいのでしょうか。

中川　5年生存率を治癒率とみるなら、全がんで早期なら95%。早期で見つければ怖くない病気になったと言っていいでしょう。

樋口　内視鏡で取れるがんは100%治ります。内科医としては、その段階でがんに会わせてほしいですね。

奥田　外科医にはうらやましい話です。転移しているがんは治しきれないことも多い。だからこそ早期発見に努めてほしいですね。

近藤　石原裕次郎さんが死んだ時、いくらお金をかけても治らないのかと思ったが、なかにし礼さんは陽子線治療で今も元気。金をかけたら治るもの？

中川　放射線治療はX線を使いますが、陽子線療法は水素の原子核を高速で打ち込みます。放射線が月8万円程度なのに対し300万円。重粒子線療法というのもありますが、向き不向きもあり、三つに差はあまりありません。医療の場合、信用できるものは安いのです。保険が利いているからで、それは有効性がはっきりしているということです。

近藤　ところで、関東の大学病院で腹腔鏡手術の事故が相次ぎました。なぜ？

奥田　高い技術が必要な保険適用外の手術をやったうえ、病院でチェックされてなかったのです。死亡事故があれば必ずチェックが入るものなのに。

近藤　病院や医師をどう選ぶかが大事ですね。奥田先生はインタビューで「具体的な質問にきちんと答えてくれない外科医の手術は断った方がいい」と言っています。さて、中川先生はなぜ放射線の道へ？

中川　がんが完治できるのは外科か放射線科と考え、当初は外科医になりたかったのです。ところが、当時は拡大切除の時代。治ってもその後の生活に負担がかかると思った。そこで日本では遅れがひどかった放射線に進みました。最初は患者が来なかったのですが、今は増えています。

近藤　健康診断は不要だと言う医者がいます。

中川　会社の検診でレントゲンを撮りますが、元々結核を見つけるためでした。今はほとんどないので、こういうのは考え直さないといけません。また、検診が必要でないがんがあるのは事実ですが、大腸がんは検査で確実に治る可能性が高いので、すべてを白か黒かで判断するのはおかしいですよ。

近藤　私は、医者はもっと聞き上手になってほしいと思っているんです。健康川柳に「美容師に医師に話せぬこと話し」などの句があります。樋口先生、内科医はどう対応されているのですか。

樋口　患者さんの顔を見て、何で悩んできたのかをつかみ、患者さんの顔を見て話さないといけません。診察現場にコンピューターが入ってきてよけいにだめになりましたね。内科に来る人は心が病んで体が病んで来る人が多い。その辺をきっちり見極めないと。

近藤　中川先生、大阪の人へのメッセージをお願いします。

中川　大腸がん検診をやったらほとんど早期に見つかり、内視鏡でほぼ治る。それで終わりで、後でお金もかからない。もっとがめつく考えて、できるだけ幸せで元気な人生を歩んでください。

早い段階で会わせて
樋口

転移すると難しい完治
奥田

安い医療こそ高い信用
中川